

NO	章	主な内容	ご意見	ご意見に対する本市の考え方
1		計画全体に関すること	<p>・本計画の「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」という理念に賛同します。特に、子どもたちが主体的に学びに向かう意欲を、社会総がかりで育むという点について、まずは周りの大人が生き生きと学びに向かう姿を見せることが大切だと考えます。特定の層に偏ることなく現役世代へも学びの支援を行っていただきますようお願いいたします。計画の達成に向けて邁進されることを大いに期待します。</p>	<p>人生100年時代においては、子どもから高齢者まですべての人に活躍の場があり、安心していきいきと暮らすことができる社会をつくることが重要な課題となっています。</p> <p>いただきましたご意見のとおり、本計画におきましては個々のライフステージに応じた生涯学習を支援することとしており、誰一人取り残すことなく、「つながり、支え合い、共に育つ生涯学習」という基本理念のもと、着実に施策の推進をまいります。</p>
2		計画全体に関すること	<p>・個人のウェルビーイングと地域全体のウェルビーイングの循環は重要な視点であると思うが、具体的にどのようにして実現するのかの記載がない。</p>	<p>本計画においては、個人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、地域全体のウェルビーイングの向上につながり、また個人のウェルビーイングの向上につながるといった、将来にわたり、循環していく姿の実現をめざしています。</p> <p>具体的には、個々に施策の取り組みとその成果指標を設定し、大阪市の関係部局からなる「生涯学習大阪計画」プロジェクト会議や外部有識者からなる社会教育委員会等のご意見を踏まえ、推進していくことで、個人のウェルビーイングと地域全体のウェルビーイングの循環の実現につなげてまいります。</p>
3		計画全体に関すること	<p>・最重要目標の一番上が、外国人の識字、日本語教室というのは日本人にとっての生涯学習は二の次にして、日本人差別だと思いました。（p.17）</p>	<p>本市では、外国人住民の急増を踏まえた識字・日本語教育への対応は言語習得機会の保障は基本的人権であるとの観点から、喫緊の課題と考えております。</p> <p>本市の「大阪市識字・日本語教育基本方針」において、識字・日本語教室は、日本人・外国人を問わず、様々な理由から読み書きや日本語の会話に不自由していることで、日常生活に不都合や不便が生じている人々を対象としています。識字・日本語学習の場は、学習者にとっては単に言葉を学ぶ場というだけでなく、社会の一構成員として、地域や社会との関わりを深めていくこと、さらにはそれぞれの主体性を発揮してよりよい地域や社会を「ともに」つくり出していくこと、これらの過程を育む場です。そして、識字・日本語学習の場で得た参加者の「学び」や「気づき」を地域社会に発信・共有することにより、多様な文化や価値観に対する市民の理解を深め、認め合う意識を醸成することで、豊かな共生社会の実現をめざしています。</p> <p>同方針に基づく取り組みを推進する意味でも、本計画における最重要目標としております。</p>
4	計画各章・施策の方向性に関すること		<p>・「人権が尊重される社会の形成に向け」生涯学習まで人権問題を扱うのですか？息が詰まる。（p.18）</p>	<p>本市では、「大阪市人権行政基本指針」の基本理念と方向性に基づき、市民一人ひとりの人権が尊重され、心豊かでいきがいのある社会の実現をめざしています。今存在しているさまざまな人権問題、また今後生じてくる人権問題についても、人権教育・啓発をはじめ、あらゆる施策において人権尊重の視点からその問題の解決に向けた取組を進めており、本計画につきましてもその理念を反映しております。</p>

第5次生涯学習大阪計画（素案）にかかるパブリック・コメントに対する本市の考え方

NO	章	主な内容	ご意見	ご意見に対する本市の考え方
5	第5章 2 (1) ③	(1)誰一人取り残さない生涯学習支援 ③ライフステージに応じた生涯学習を支援	<p>・大阪市の学校図書館は、文部科学省が求める専門職員である学校司書を想定どおりに配置できていません。</p> <p>学ぶためには、思考力と直結する「読む力」の育成は必要不可欠です。「読む力」を育てるためには、たくさん読むことが欠かせません。子どもたちがたくさんの本と出会える場所として、学校図書館は必須の場所です。大阪市のほとんどの学校では週1日ずつしか学校司書が配置されていないため、子どもたちは毎日図書室や図書室の本を利用できない状態です。「読書を全くしない」と回答する児童生徒の割合が全国平均と比べても高い値で、読書意欲が低く読書支援がほとんど機能していないことの証明ではないでしょうか？このまま成長していくと、大人になっても仕事や生活に必要な文書の理解ができるようになっていくのかと非常に心配です。</p> <p>・学校司書は、子どもの本についての専門知識が豊富で、それぞれの子に応じて様々な本を紹介したり、季節やニーズに応じた本の展示やイベントを行ったりすることで、子どもの興味関心の幅を広げることができます。教員と連携して、授業に関連する図書資料を用いてさらに学びを深めることもできます。毎日勤務しているとボランティアとも連携し、効果的な取り組みをすることもできます。</p> <p>専門の学校司書が毎日勤務している自治体では、学校図書館の整備が進み、読書の支援だけでなく、授業や教育活動で図書資料を効果的に使ったり、情報活用教育も行われ、子どもたちが学ぶ力や生きる力をぐんぐんとつけているようです。読書に親しむ子どもの方が学習意欲も高いという調査報告もあります！</p> <p>・学校図書館は、子どもたちが生涯学習を始めるための拠点でもあり、大阪市では早急に学校司書を週5日配置し、学校図書館を整備し、子どもたちが読書意欲を向上できる環境を整える必要があると思います。</p>	<p>学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、教科学習だけでなく、全ての教育活動で活用でき、子どもたちの学びを支えています。学校図書館の開館は、学校司書だけでなく、学校図書館に関わる教職員、図書ボランティア等によっても行われ、児童生徒が学校図書館を利用できるよう、各学校で工夫しています。</p> <p>引き続き、学校司書の配置体制の充実も含め、学校図書館の整備・充実、子どもたちの読書意欲を高める環境づくりに努めてまいります。</p>
6	第5章 2 (1) ③	(1)誰一人取り残さない生涯学習支援 ③ライフステージに応じた生涯学習を支援	<p>・（1）誰一人取り残さない生涯学習支援 ③ライフステージに応じた生涯学習支援 ア子ども・青少年の学びを支援 具体的な取り組み（p.25～p.27）</p> <p>「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づき、大阪市のすべての子どもに読書に親しむ機会を提供するため、読書環境の整備・充実に努めるとともに・・・とありますが、⇒現在大阪市には各区に1館しか公立図書館がありません。校区内に必ずあるわけでもなく特に低学年の児童は親や大人に連れて行ってもらわなければ図書館を利用できません。本や新聞のない家庭に増えていることを考えると、子どもが毎日通う学校に本に触れる機会がきちんと保障されることが大切です。読書に親しむ機会を提供するための読書環境の整備・充実のために学校図書館の整備・充実は欠かせません。</p> <p>・子どもの学びを支援するため、魅力ある学校図書館づくりを進め、小中学校及び義務教育学校の図書館整備を支援するとともに、調べ学習・一斉読書など学校教育での図書館活用、読書活動、放課後の学習支援などの取組を行います。⇒大阪市では2022年度から主幹学校司書を配置。3年が経過し、学校司書が週4日配置されたことによる様々な成果が見られました。しかし、今年度からは継続を希望したにもかかわらず、週1日の配置になってしまった学校があります。子どもたち、保護者、教師、校長先生などから残念だという声がたくさん届いています。そして、大阪市の全小・中学校の9割以上が週1日配置のままという状況です。いくら主幹学校司書が業務の中で得られた実践事例やノウハウをほかの学校と共有し、ほかの学校の学校図書館の改善につなげようと思っても、週4日で行っている仕事を週1日でこなすのは物理的に無理なことは火を見るより明らかです。人生100年時代、誰もが取り残されることなく、生涯学びを続ける楽しさを知り、そして豊かな人生を送るため、また必要な情報を得て課題解決をするためには、情報を得る力、読み取る力、それを活用する力が必要です。その力の基礎の基礎をつけるためにも学校図書館の整備充実がかかせません。学校司書の週5日配置を計画的に目指してください。</p>	<p>学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、教科学習だけでなく、全ての教育活動で活用でき、子どもたちの学びを支えています。学校図書館の開館は、学校司書だけでなく、学校図書館に関わる教職員、図書ボランティア等によっても行われ、児童生徒が学校図書館を利用できるよう、各学校で工夫しています。</p> <p>引き続き、学校司書の配置体制の充実も含め、学校図書館の整備・充実、子どもたちの読書意欲を高める環境づくりに努めてまいります。</p>

NO	章	主な内容	ご意見	ご意見に対する本市の考え方
7	第5章 2 (2) ③	<p>(2) 支え合い共に生きる社会を創る生涯学習支援</p> <p>③ 「教育コミュニティづくり」と地域学校協働活動を推進</p>	<p>・生涯学習ルーム 学校の立地により、校内の学習ルームでは遠すぎて参加できない、という現状があります。</p> <p>必ずしも学校が会場ではなく、地域の福祉会館でも生涯学習ルームができるようにして欲しいです。</p> <p>学校のインターホンを鳴らして入るのは本当にハードルが高いです。(p.35)</p>	<p>大阪市生涯学習ルーム事業は、市民の日常生活にとって身近な施設である小学校の特別教室等を活用し、講習・講座を実施しているものです。とりわけ、地域社会の共有財産である学校を核とすることで、地域社会の中で子どもの健全な発達をめざす「教育コミュニティづくり」を進め、地域住民への学習機会の提供と充実を図り、地域のコミュニティづくりにも寄与するものと考えております。</p>
8	第5章 3 (4)	<p>3 施策推進の仕組み</p> <p>(4) 生涯学習関連施設の機能の充実</p>	<p>・図書館は、生涯学習施設として図書館資料の提供や様々な機能やイベントを通して、市民サービスをされており、大阪市内に住み始めてから多目的に利用させていただいており、大変感謝しています。</p> <p>今日の図書館は、計画に記載されているように、読書に困難を抱える人の利用支援の充実、多文化サービス、ICT活用等を一層促進することを期待されており、それらの機能やサービスの充実により多くの市民が学びを進めることによりさらに充実した生活をおくれるようになるのでは、と期待します。</p> <p>但し、計画や文言ばかりではなく、必要な場所に専門の人員をきちんと配置していただき、文言が現実となるように取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>・大阪市の図書館職員は、十数年前から正規職員が減らされ、派遣職員に置き換わっていると聞きます。各区の図書館には、館長を含め2名ずつしか司書が勤務しておらず、この十年以上学校図書館支援業務も増加しているにもかかわらず、従来どおりの人数で仕事をこなされているようです。職員数を減らさばかりで仕事を増やしても、すべての業務を細やかには行えないのではないのでしょうか？また若い年代の職員が少ないことにより、図書館の資料や機能を今後も継続維持できるのか心配です。</p> <p>昨今、人々は仕事や生活に追われ、生涯学習施設を活用して学んでいる人は一部の人に限定されているのではないのでしょうか？生涯学習の普及を進めるには、広報の充実やきめ細やかな利用者対応も必要であり専門職員の増員は不可欠であると思えます。(p.22~29, p.27)</p>	<p>限られた予算の中で効果的に図書館サービスを提供できるよう、窓口等業務を一部民間委託するなど、効率的な運営に努めております。引き続き、サービスの充実と、必要な業務執行体制について、検討してまいります。</p>

NO	章	主な内容	ご意見	ご意見に対する本市の考え方
9	第5章 3 (4)	3施策推進の仕組み (4)生涯学習 関連施設の機能 の充実	<p>・大阪市に抱える課題は山のようにあります。貧困、外国にルーツを持つ方の転入急増、不登校の増加、少子高齢化…。</p> <p>「生涯学習計画を考えるときにあらゆる場面で図書館の果たす役割は重要です。図書館において、点字図書、録音図書、LLブック27、拡大図書（大活字本）、デイジー図書（音声デイジー・マルチメディアテイジ-28）等、アクセシブルな書籍29の提供、対面朗読や郵送貸出サービス等の実施により、読書に困難を抱える人の利用支援の充実を図ります。</p> <p>・外国語資料の充実、多言語による利用案内、外国語の絵本等を活用した行事の実施など、図書館における多文化サービスを継続、充実します。</p> <p>・図書館において、商用データベースや電子書籍、音楽配信サービス等電子図書館機能を充実し、デジタルアーカイブ35のオープンデータ化等、ICT利活用を一層促進します。</p> <p>・図書館において、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、生活上の様々な課題や地域課題の解決のため、図書館機能の充実を図ります。</p> <p>・読書は、乳幼児・青少年期、成人期、高齢期の一生にわたって、個人の学びや成長を支えるものであり、教養や娯楽のみならず、生活するために必要な情報を得る手段であり、教育や就労を支える重要な活動です。障がいの有無にかかわらず、誰もが等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けた取り組みが必要です。」</p> <p>とたくさん記述があり41ページにも図書館の機能の充実が記載されています。生活上の様々な課題や地域課題の解決、大阪市としてICT利活用を進めるためにも、土台となる読書力をつけておくことは欠かせません。中央図書館、地域図書館の機能充実を具体的に進めていくためには、専門家である司書の継続的な配置、出来れば増員、資料を揃えるための資料費増額（本の値段が高騰している。外国語資料の充実などの必要があるなど）が必要です。</p>	<p>引き続き、市立図書館に専門業務を担う司書を配置し、必要な図書館サービスを提供できるように、資料の充実に努めてまいります。</p>
10	第6章 1	計画の推進に当たって	<p>・NPOは助成金が多い割には、ボランティアを無償で使い、不正があっても行政指導が入らないのであまり活用して欲しくありません。FATF※から日本のNPOは犯罪の温床になっていると指摘されている件について大阪市の見解を知りたいです。（P43）</p>	<p>国においては、「公共サービスの提供について、地域住民、地域組織、NPO法人、企業等の民間の多様な主体も等しくそのサービスの提供者となりうる」との認識に立ち、官民が協働して地域社会を持続的に発展させていく」という、いわゆる「新しい公共」の考え方を進めてきており、本市におきましても「新しい公共」を担う人づくりを進めるうえで、企業・NPO・高等教育機関など様々な団体との連携・協働を進めるものと考えております。</p>

※FATF…Financial Action Task Force：金融活動作業部会。

テロ資金供与への悪用防止の取り組みをより実効性の高いものとするため、対象活動地域で国際協力活動を行っているNPO法人を対象にモニタリングを実施している。
(内閣府NPOホームページより)